

株式の状況

株式数及び株主数 (平成29年3月31日現在)

発行可能株式総数	7,800,000株
発行済株式総数	1,950,000株
株主数	649名

大株主 (平成29年3月31日現在)

	持株数(株)	持株比率(%)
株式会社アルゴグラフィックス	990,000	51.6
セイコーインスツル株式会社	408,000	21.3
ジーダット従業員持株会	51,500	2.7
GOLDMAN SACHS INTERNATIONAL	21,400	1.1
宮下英尚	15,300	0.8
新井郁子	14,900	0.8
BNY GCM CLIENT ACCOUNT JPRD AC ISG (FE-AC)	13,700	0.7
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	12,000	0.6
松井証券株式会社	11,100	0.6
伊東和美	10,900	0.6

所有者別状況 (平成29年3月31日現在)

所有者区分	持株数(株)	持株比率(%)
金融機関	17,600	0.9
証券会社	26,599	1.4
その他国内法人	1,416,000	72.6
外国法人等	52,800	2.7
個人・その他	406,906	20.9
自己名義株式	30,095	1.4
計	1,950,000	100.0



本社 東京都中央区東日本橋3-4-14 OZAWAビル Tel : 03-5847-0312 (代)
 当冊子に関するお問合せ先 株式会社ジーダット 経営企画部 E-mail : corporate.planning1@jedat.co.jp

株主メモ

上場市場	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)
事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
配当基準日	3月31日
株式の売買単位	100株
株主名簿管理人	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社

	証券会社等に 口座をお持ちの場合	証券会社等に 口座をお持ちでない場合 (特別口座の場合)
郵送物送付先		〒168-8507 東京都杉並区和泉2-8-4 みずほ信託銀行 証券代行部
電話お問合せ先		フリーダイヤル 0120-288-324 (土・日・祝日を除く 9:00~17:00)
各種手続お取扱店 (住所変更、株主配当金 受取り方法の変更等)	みずほ証券 本店および全国各支店 プラネットブース(みずほ銀行内 の店舗)でもお取扱いたします。	みずほ信託銀行 本店および全国各支店(※) (※)トラストラウンジではお取扱で きませんのでご了承ください。
未払配当金のお支払	みずほ信託銀行(※)およびみずほ銀行の本店および全国各支店(みずほ証券では取次のみとなります) (※)トラストラウンジではお取扱できませんのでご了承ください。	
ご注意	支払明細発行については、右の「特別口座の場合」の郵便物送付先・電話お問合せ先・各種手続お取扱店をご利用ください。	特別口座では、単元未満株式の買取・買増以外の株式売買はできません。証券会社等に口座を開設し、株式の振替手続を行っていただく必要があります。
公告掲載方法	電子公告とし、次の当社ホームページに掲載します。 (http://www.jedat.co.jp/) ただし、事故その他やむを得ない事由により、電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載します。	

表紙の絵は、江戸時代に歌川広重が描いた、活気にあふれる日本橋です。日本各地へ広がる五街道の起点、日本橋から、JEDATは日本EDAの最先端技術を世界に発信いたします。



見やすく読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォント
を採用しています。



株式会社ジーダット

証券コード:3841

第15期 株主通信

自平成28年4月1日 至平成29年3月31日





JEDAT は Japan EDA Technologies の略です。

私たちは、日本の EDA のリーダーとして、
電子産業の発展に貢献したいと考えています。

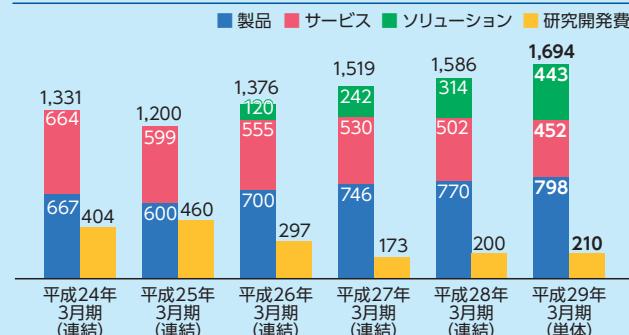
EDA とは Electronic Design Automation の略です。

電子機器や電子部品の設計作業を支援、検証するソフトウェア（電子系 CAD）で、
設計作業には不可欠なツールであり、設計期間の短縮や設計品質の向上を実現します。

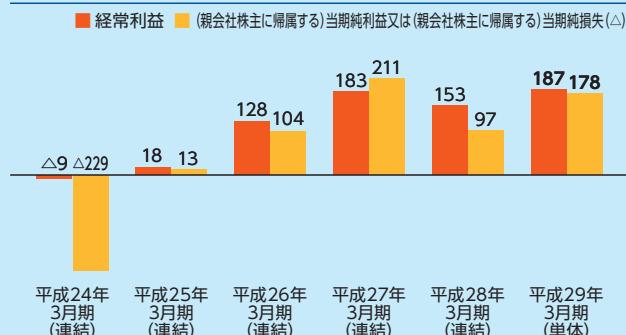
財務ハイライト

(単位：百万円)

売上高・研究開発費



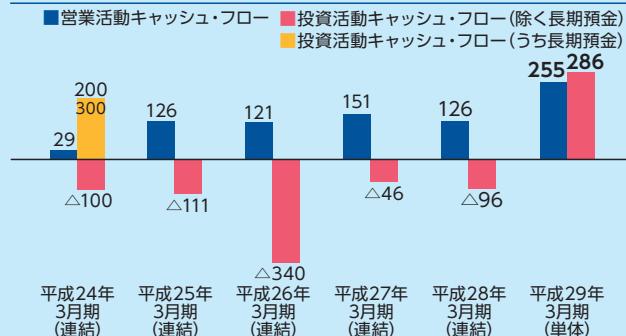
経常利益・(親会社株主に帰属する)当期純利益又は(親会社株主に帰属する)当期純損失(△)



総資産・自己資本



キャッシュ・フロー



注 当社は、平成29年3月期より非連結決算に移行しております。平成28年3月期以前については、連結決算の数値を記載しております。

株主の皆様へ

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。また平素より当社に格別のご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

当第15期は、新主力製品であるSX-Meisterの販売を6月に開始し、12月にはバージョン2.0をリリースいたしました。また秋のプライベートセミナーには前年を上回る数のお客様にご来場いただき、SX-Meisterの今後の理念やロードマップを発表いたしました。九州デザインセンター熊本事業所では、車載用半導体設計受託に不可欠な品質マネジメントシステムの国際規格：ISO9001の認証を11月に取得し、ソリューション・ビジネスは順調に業績を伸ばしました。また、代理店製品を梃子に、新規顧客層の拡大をはかりました。

こういった活動の結果、当事業年度の売上高は、海外向け売上が低迷したもののソリューション・ビジネスの売上が大幅に伸長したことにより、前連結会計年度比6.8%増の16億94百万円となりました。

電子部品業界の市場は、全世界的に見ると、スマートフォン、自動車、IoTの牽引によってリーマンショック以前の状況に戻りつつあると感じております。特に半導体市場におきましては、フラッシュメモリとCMOSイメージセンサーが活況を呈しており、国内外における業界の再編も継続しております。加えて国内では、技術力の高いファブレスメーカーや、IPベンダーの動きが活発になっております。FPD市場におきましては、比較的設計が容易な大型パネルに加えて、異形パネル、中でも車載向けの複雑な形状のパネルの開発が加速しております。また、次世代スマートフォンへの搭載が期待されている有機ELパネルの設計も活発に行われております。

このような状況における売上拡大の施策として、当社は第一に、新主力製品であるSX-Meisterの開発

を更に加速し、特に解析や検証など、手間のかかる設計工程の自動化に注力して競合他社との差別化をはかります。同時に、熊本デザインセンターに続いて本社のEDA開発部門でもISO9001を取得し、ソフトウェア開発においても我々の品質力をアピールしてまいります。また、販売促進活動強化の一環といたしまして、プライベートセミナーに加え、積極的に国内外の学会や展示会へ参加し、自社製品及び代理店製品のラインナップをご紹介してまいります。

海外向けには中々拡販の成果が出ない年が続いておりましたが、競合他社との差別化をはかれる解析・検証系ツールを揃え、北米、台湾、中国に向けて販促リソースを集中してまいります。設計アウトソーシングにおきましては、ひっ迫する需要に応えるべく、熊本デザインセンターの増員を継続し、商機を捉えてまいります。また第16期にはこれらの施策を行うための要員増強に対応するため、本社及び熊本デザインセンターの移転を計画しており、心機一転、次の飛躍に向けて前進してまいります。

株主の皆様におかれましては、より一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。



代表取締役社長
河内 一往

特集 開発本部 プロジェクトマネージャーに聞く

世界初の機能を搭載した 制約ドリブンルータGT-Router

2017年3月、ジーダットは世界初の制約ドリブン電源スリット配線自動生成ツール『GT-Router』の発売を開始いたしました。

今回ご紹介するGT-Routerは、IoT機器やスマートフォンのキーデバイスであるセンサーやメモリの設計に最適なツールであるため、今後IoT時代が本格化するにつれて、大いに活用されることが期待できます。GT-Routerが可能にするIoT時代の新設計について、開発本部 プロジェクトマネージャー 南 誠に聞きました。

GT-Routerは、何をするためのソフトですか？

半導体のチップは、多数のデバイス（トランジスタ、抵抗、容量などの素子の集合体）で構成されていますが、それらを線で繋ぐのがいわゆる「配線」で、GT-Routerはそれを自動で行うツールです。しかし、配線は単に繋げればよいというものではなく、線にも色々な種類や太さ、他の線に対する影響など様々な条件があり、それぞれの干渉を抑制した配線が求められます。電源やグラウンドなど、太い幅が要求される配線の割合が高くなると、限られた配線リソースをどのように分け合うか、といった要素が加わり、さらに問題が複雑化します。これらをはじめとする様々な「制約」と呼ばれるルールを考慮しながら、時には何層もの立体的な重なりの中で配線をチップ全体に張り巡らせるためには、設計者の頭の中は3次元の迷路を解くような感覚になり、勘や経験といった職人的な

技術が必要とされてきました。

GT-Routerがこれまでの配線ツールと異なるところは、これらの勘や経験といった職人的な技術を自動化したツールであるということです。すなわち、熟達した設計者が考えている色々なことを、設計者に代わって全て考える、いわば「人間の感覚」に近いツールになっています。職人的な技術が必要なこれらのケースで設計者が行う手順を自動化したのは、GT-Routerが世界で初めてです。

GT-Routerの「自動配線」の効果は？

設計効率は、手設計のおよそ倍以上です。例えば通常1ヶ月弱程度を要する配線作業を、GT-Routerを利用すると5日ほどで終えることが可能です。設計プロセスルールに従った別のツールによるチェックや、設計後のエラーが発生した箇所への手修正など、配線後のチェックにかかる時間を考慮しても、配線にかかる時間はこれまでの手



設計の半分以下に短縮できます。また、設計者の勘と経験に基づく工夫を自動で行うことによって、単に時間を短縮するだけではなく、熟練経験者不足という大きな問題の解決もはかります。

品質面に関してもGT-Routerによる配線は、手設計の品質を保ちつつより良い解を導く、というポテンシャルを持っています。手設計では妥協するところをGT-Routerでは自動で設計することによって、妥協せず、より歩留まりの良い、チップサイズに余裕を持たせた配線を行えます。また、配線にかかる時間が短縮できる分、フォーカスすべきポイントに作業をフォーカスできることによる効果も非常に高いものがあります。

JEDATツール群における位置づけは？

昨年6月、JEDATの主力製品群であるSXシリーズの次世代ブランド、SX-Meisterの販売が開始されました。GT-Routerは、SX-Meisterから新たに

投入されるツールの中でも大きな柱の一つで、レイアウト設計の自動支援の中核を担うツールです。

GT-Routerは、JEDATのレイアウト設計システム：Ismo-Advancedの設計環境で設計自動化の効果を発揮します。Ismo-Advancedには「シンボリック配線」という、レイヤーや幅の情報を持たない経路だけを表すオブジェクトがあるのですが、この表現自体がJEDAT特有の技術であり、GT-Routerはここで、配線経路や設計制約を考えた配線を行います。ですから、GT-Routerの製品力はそのまま、Ismo-Advanced、すなわちSX-Meisterにおけるレイアウト設計環境全体の競争力を高めます。

売上への効果は？

短期的な売上への効果としては、既存のSX-Meister Ismo-Advancedユーザーのお客様がターゲットになります。今まで手設計するしか方法がなかった部分をカバーできる初の自動設計ツールということで、既に多くの引き合いをいただいております。2017年度では1億円ほどの売上を見込んでいます。

また、中長期的な売上への貢献としては、まだジーダットの設計ツールSX-Meister Ismo-Advancedを導入いただいていない新規のお客様への拡販効果が大きいものと考えており、ツール単体では、3年で6億円ほどの効果を見込んでいます。海外における新規のお客様開拓の足がかりになるものとしての期待も大きく、SX-Meister自体の導入を後押しできる大きな武器になると考えています。

業績の概要

■売上高の増加により4期連続の営業利益増

当事業年度において、当社の主要顧客である国内の半導体ならびにFPD (Flat Panel Display) 等電子部品業界の業績は、上期は長期化する円高基調やスマートフォン需要の低迷、さらに欧州ならびに新興諸国の景気後退等の影響で、概ね横ばいから減速傾向が散見される状況であり、一般的に閉塞感が漂っておりました。下期に入り急峻な円安基調への遷移に加えスマートフォン向け部品に対する大幅な需要が発生したこと等により、特に携帯機器関連や自動車関連を中心として、束の間の回復傾向が巻き起こることとなりました。しかしながら業界全体を見渡すと、一部の主力企業間における業界再編が未だ途上であり、当事業年度に発生した回復傾向も、一過性的特需と一時の円安基調に依存しており、極めて不安定な状況であ

るため、先行き不透明感は続くものと見ております。このような状況の中、当社は国内市場において、当社が全力で開発を進めている最新の自社開発製品をプライベートセミナーで発表して、既存顧客の新たな需要を喚起するとともに、競争力のある代理販売品を梃子にして、新規顧客層を拡張する等、精力的な営業活動を展開いたしました。ソリューション・ビジネスにおいては、ここ数年来高まりつつある半導体設計アウトソーシング需要を受けて、優秀な設計技術者を増員することにより、半導体設計受託サービスに関する売上の大幅な拡大を図りました。さらに前事業年度から本格的に立ち上げを行っていたEDAアウトソーシングは、社内外の各種リソースを効率的に活用した結果、順調に売上に貢献する所まで伸ばすことができま

(単位：百万円)

	平成26年3月期業績		平成27年3月期業績		平成28年3月期業績		平成29年3月期業績		
	実績(連結)	売上高比	実績(連結)	売上高比	実績(連結)	売上高比	実績(単体)	売上高比	対前期比
売上高	1,376	100.0%	1,519	100.0%	1,586	100.0%	1,694	100.0%	+6.8%
売上総利益	1,068	77.6%	1,065	70.2%	1,098	69.2%	1,114	65.7%	+1.4%
販売費及び一般管理費	989	71.9%	939	61.9%	944	59.5%	939	55.4%	△0.5%
営業利益	79	5.8%	125	8.3%	153	9.7%	174	10.3%	+13.5%
経常利益	128	9.3%	183	12.1%	153	9.7%	187	11.0%	+22.2%
(親会社株主に帰属する) 当期純利益	104	7.6%	211	13.9%	97	6.1%	178	10.5%	83.1%

注 当社は、平成29年3月期より非連結決算に移行しております。平成28年3月期以前については、連結決算の数値を記載しております。

した。海外市場においては、国際的な展示会・学会で画期的な新製品および当社の最新研究成果を発表し、当社の技術力をアピールすると並行して、業績が低迷している一部の国の代理店を再編し、売上を回復させるべく注力いたしました。

その結果、売上高は16億94百万円(対前連結会計

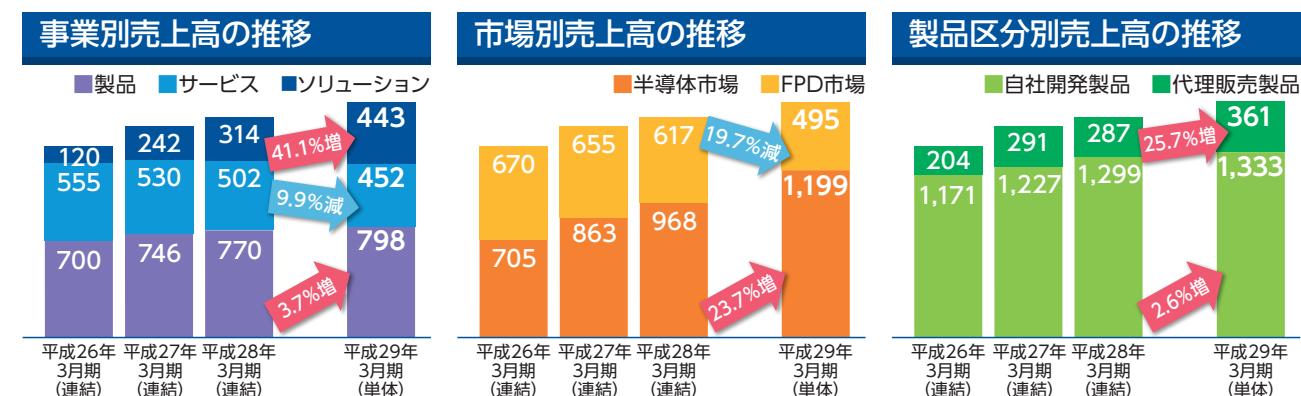
年度比6.8%増)となり、営業利益は1億74百万円(同13.5%増)となりました。経常利益は、営業外収益13百万円を計上したことにより1億87百万円(同22.2%増)となりました。当期純利益は、法人税等調整額を21百万円計上した結果1億78百万円(同83.1%増)となりました。

■ソリューション・ビジネスが大幅に伸長

事業別では、製品売上高は、海外市場向けが低迷したものの、国内においては携帯機器関連及び自動車関連分野に向けた、解析系・検証系ツール群等の売上高が堅調であったことにより、7億98百万円(対前連結会計年度比3.7%増)となりました。サービス売上高は、顧客企業の事業再編やリストラによる設計者の減員等の対抗策として、新主力製品の発表ならびに新たな代理販売品のプロモーション活動に加え、新

規顧客開拓等の積極的な営業活動を展開しましたが、市場全体の縮小基調による影響を全てカバーするまでには至らなかったことにより4億52百万円(同9.9%減)となりました。ソリューション売上高は、半導体設計受託サービスの売上高が、設計者の増強等により大きく拡大したことに加え、EDAアウトソーシングが順調に立ち上がり売上に貢献し始めたことにより4億43百万円(同41.1%増)となりました。

(単位：百万円)



注 当社は、平成29年3月期より非連結決算に移行しております。平成28年3月期以前については、連結決算の数値を記載しております。

財務諸表

(平成28年4月1日～平成29年3月31日)

貸借対照表

(単位:千円)

科目	前事業年度 (平成28年3月31日)	当事業年度 (平成29年3月31日)
資産の部		
流動資産	2,597,226	2,909,300
2 現金及び預金	1,952,460	2,465,832
受取手形	7,025	6,984
電子記録債権	22,194	113,491
売掛金	205,492	200,412
1 有価証券	300,000	—
繰延税金資産	24,411	36,732
その他	85,641	85,846
固定資産	273,613	282,677
有形固定資産	17,311	15,134
無形固定資産	15,895	10,722
ソフトウェア	15,895	10,722
投資その他の資産	240,407	256,820
投資有価証券	222,139	222,841
繰延税金資産	—	9,540
その他	18,267	24,438
資産合計	2,870,840	3,191,977

注 当事業年度より非連結での業績を開示しておりますため、個別業績の前年同期との比較を行っております。

1 有価証券

有価証券3億円が満期償還となり、現金化されたことによるものであります。

科目	前事業年度 (平成28年3月31日)	当事業年度 (平成29年3月31日)
負債の部		
流動負債	330,504	501,900
買掛金	27,373	42,869
未払金	32,970	43,359
未払費用	29,682	30,827
未払法人税等	8,096	33,471
前受金	138,359	252,149
預り金	7,878	7,245
賞与引当金	86,144	91,978
負債合計	330,504	501,900
純資産の部		
株主資本	2,539,219	2,688,997
資本金	760,007	760,007
資本剰余金	890,558	890,558
利益剰余金	921,397	1,071,223
自己株式	△32,742	△32,791
新株予約権	1,116	1,080
純資産合計	2,540,335	2,690,077
負債純資産合計	2,870,840	3,191,977

2 現金及び現金同等物の期末残高と現金及び預金

「現金及び現金同等物の期末残高」と貸借対照表「現金及び預金」との差異は、預入期間3ヶ月を超える定期預金9億28百万円によるものであります。

損益計算書

(単位:千円)

科目	前事業年度 (自平成27年4月1日 至平成28年3月31日)	当事業年度 (自平成28年4月1日 至平成29年3月31日)
売上高	1,550,877	1,694,949
売上原価	488,510	580,863
売上総利益	1,062,367	1,114,085
販売費及び一般管理費	937,461	939,506
営業利益	124,905	174,578
営業外収益	7,747	13,366
営業外費用	8,725	760
経常利益	123,927	187,183
税引前当期純利益	123,927	187,183
法人税、住民税及び事業税	12,757	30,419
法人税等調整額	1,887	△21,861
当期純利益	109,282	178,625

注 当事業年度より非連結での業績を開示しておりますため、個別業績の前年同期との比較を行っております。

株主資本等変動計算書

(単位:千円)

	株主資本							新株予約権	純資産合計
	資本金	資本剰余金		利益剰余金		自己株式	株主資本合計		
		資本準備金	資本剰余金合計	その他利益剰余金 繰越利益剰余金	利益剰余金合計				
平成28年4月1日残高	760,007	890,558	890,558	921,397	921,397	△32,742	2,539,219	1,116	2,540,335
当期変動額									
剰余金の配当				△28,799	△28,799		△28,799		△28,799
当期純利益				178,625	178,625		178,625		178,625
自己株式の取得						△48	△48		△48
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)								△36	△36
当期変動額合計	-	-	-	149,826	149,826	△48	149,777	△36	149,741
平成29年3月31日残高	760,007	890,558	890,558	1,071,223	1,071,223	△32,791	2,688,997	1,080	2,690,077

キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

科目	当事業年度 (自平成28年4月1日 至平成29年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	255,140
投資活動によるキャッシュ・フロー	286,769
財務活動によるキャッシュ・フロー	△28,848
現金及び現金同等物に係る換算差額	433
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	513,494
現金及び現金同等物の期首残高	1,024,288
2 現金及び現金同等物の期末残高	1,537,782

注 前事業年度においては連結ベースでのキャッシュ・フロー計算書を作成しておりましたので、前年同期との比較は行っておりません。

1株当たり情報

1株当たり純資産	1,400円59銭
1株当たり当期純利益	93円04銭

トピックス

熊本事業所がISO9001の認証を取得

2016年11月18日、当社半導体設計事業の中核である、九州デザインセンター熊本事業所において、品質マネジメントシステムの国際規格「ISO9001:2015」の認証を取得しました。適用の範囲は「半導体の設計及び開発」です。

今後も品質マネジメントシステムの維持・改善を継続し、お客様にご満足いただける製品・サービスをご提供してまいります。



東北大学マイクロシステム融合研究開発センターとMEMSデバイス設計システムの構築に関して提携

2016年11月16日、当社は東北大学マイクロシステム融合研究開発センター（所在地：宮城県仙台市、センター長：江刺正喜、以下「 μ SIC」）と、IoT分野のキーデバイスとなるMEMSデバイスの設計・開発を大幅に効率化するため、新たな設計環境の構築に向けた共同研究契約を締結いたしました。

MEMSデバイスは、携帯機器でも使用されているセンサー等の微細デバイスの総称です。新世代のIoT分野においては、キーデバイスとして注目されており、現在多くの大学や企業において盛んに研究開発が行われています。

今回、MEMS技術分野において実績のある μ SICに現行のSX-Meisterを提供し、MEMS設計環境に関する課題の洗い出しや最適な設計環境の模索からスタートします。そして1～2年後には、新しいMEMSデバイス設計開発用システムの立上げを目指します。



μ SIC江刺正喜センター長（左）と
当社松尾和利取締役

会社概要/役員

(平成29年6月14日現在)

会社概要

商号 株式会社ジーダット (Jedat Inc.)

所在地 〒103-0004 東京都中央区東日本橋
3-4-14 OZAWAビル

代表者 代表取締役社長 河内 一往

営業開始 平成16年2月2日

資本金 760,007,110円

事業内容 電子回路・半導体集積回路・液晶モジュール等設計支援のためのソフトウェア開発・販売及びコンサルテーション・半導体集積回路の設計受託

役員

代表取締役 河内 一往

取締役 田口 康弘

取締役 松尾 和利

取締役 太田 裕彦

取締役 藤澤 義麿

取締役 長谷部 邦雄

取締役 常野 誠

社外取締役 下田 貞之

社外取締役 日野 陽司

社外監査役(常勤) 藤田 鋼一

監査役 中村 隆夫

社外監査役 今井 眞一